



校友会だより

第44号



2021年(令和3年)

中央区立久松小学校校友会

〒103-0005 中央区日本橋久松町7-2

SAPIXサピックスには 合格のメソッドがあります。



『なぜ?』から生まれる『討論式授業』

～子どもたちとのコミュニケーションを重視した授業スタイル～

オリジナル教材

～学ぶ喜びに直結する様々な工夫～



授業は週1～3日

～小学校生活や習い事との両立も大丈夫～

復習中心の学習法

～思考に広がりを持たせるらせん状カリキュラム～

※入室を希望されるお子さま、各種特訓・講習などの受講を希望されるお子さまには、「入室テスト」を受けていただいております。お申し込み等の詳細はホームページをご確認ください。

サピックス 検索 www.sapix.com

中学
受験

SAPIXサピックス

小学部

☎0120-3759-50

■受付時間 / 日曜・祝日をのぞく14:00～17:00
SAPIX YOZEMI GROUP



中央区日本橋浜町2-31-1
03-3660-3939

明治座

お切符のお求めは…



または…

明治座ホームページ上で、
チケットのご予約を承っております

インターネット予約「席とりくん」

詳細は、<http://www.meijiza.co.jp> をご覧ください。

感動をクリエイイトする劇空間。



江戸総鎮守

神田明神

<http://www.kandamyojin.or.jp/>

初めてのオンライン校友会総会 開催にあたり

昭和五十三年卒業
校友会及び運営委員会会長
川口 修一郎

校友会の会長職を拝命しています、川口修一郎です。いつもお世話になり、ありがとうございます。私には役目上で会長と言うことになっていますが、校友会の主役は校友である、皆さまお一人お一人であり、皆さまが懐かしい恩師や仲間と親交を深めるために必要な名簿などを管理する事務局的な立場であると思っております。従ってリーダーシップの発揮の仕方も会社のようなタテのリーダーシップではなく、お願いベースのヨコのリーダーシップを心掛けて参る所存です。

一昨年の五月の校友会は年度幹事さんの中から選出された校友会実行委員長さんのもと、久々に母校校庭で行い、恩師、校友、新中学一年生だけでなく現役の小学生、幼稚園児、

保護者御家族にも声をお掛けしてオープンハウスの校友会を開催しました。運営にあたり、現教職員主事さんの方々、年度幹事の方々、PTAの役員の方々、久松子ども応援会（パパ会）の方々、日本橋五の部地区委員会のの方々、日本橋中学校プラスバンドの方々、多くの皆様のご協力を賜り開催する事が出来ました事にあらためて感謝をしたいと思います。

昨年はコロナの影響により残念ながら、校友会総会は中止となりました。今年の校友会こそは一昨年と同じ運営方法で、より磨きをかけてここに来れば懐かしい皆にお会いすることが出来る現役から大先輩の皆様が、母校を中心に集まれる楽しい、懐かしい、暖かい会を目指していかれたらと思っておりましたが、コロナの影響は長引いており、一度は今年も、昨年同様中止と判断しましたが、今年の校友会実行委員長の杉山寿英さんの提案により、オンライン校友会総会をやりましょう、という

事になりました。実は、校友会の会議も杉山さんの提案でZoomで会議を重ねて杉山さんはロンドンから参加していました。

来年、コロナも収まり通常の校友会総会が開催される時には、昨年今年も節目として参加できなかった、新中学校一年生の会員の皆様、ホームカミングの会員の皆様になんらかの形で歓迎ができるように検討をしていきたいと思えます。乞うご期待を。

最後に来年創立百五十周年という大変大きな節目の年を迎える母校久松小学校は一年間を通して周年行事が行われます。前回は式典の他にパレードなど、久松小学校のホームページの周年行事というところに詳しく記録されています。校友会の我々一同としては、母校の御祝いの年に、七千人の会員の総力を上げて周年行事をバックアップしていけたらと思っています。いろいろな課題はありますが、会員の皆様の御教導を賜れば幸いです。

コロナ禍もたくましい久松の子

第二十二代
久松小学校校長 植村 洋司

若葉・青葉の色も一段と濃くなり、今年も久松校友会総会の季節となりました。校友会の皆様には、日頃より久松の子どもたちのために様々な形でお力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、中央区全体でも人口が増加する中、本校においても毎年五十名程度ずつ児童数が増え、全校八百名を超え、益々活力ある久松小学校となつております。

本校の教育目標は「強く、正しく、豊かに」です。このことを、次のように捉えています。○心身ともに健康で、自律と自立のための強い意志と向上心をもち、自らよりよい成長を目指す。

○ものごとを正しくみつめ、正しい判断と行動のできる主体性を身に付ける。

○豊かな心情や創造性を高め、互いに尊重し合い、思いやりの心をもち、共生社会の担い手となる。

この教育目標実現のための学校経営の基本

理念として三つ挙げます。

(一) 楽しさのある学校・分かる授業や温かい人間関係づくりによって一人一人の存在感を大切にします。

(二) 厳しさのある学校・基本的な生活習慣や礼儀・礼節を重んじ、相手の立場を考えることを大切にします。

(三) 信頼感のある学校・校風を重んじ、責任感や相互理解の下、一人一人の子どもを大切にします。

さて、昨年度学校は、新型コロナウイルス感染症感染防止対策に終始した一年となりました。振り返りますと、四月六日始業式と入学式を無事に終えたのも束の間、翌日から五月二十一日まで臨時休校となりました。六月一日から分散登校で学校を再開し、全校児童がそろったのは六月十五日となりました。例年のような行事はできませんでしたが、みんなで知恵を絞り、「スポーツデー」や「秋の久まつり」など、今できることを工夫し充実させることができました。何よりも、子どもたち一人一人が「自分たちの力で創り上げる」ことを大事に取り組み、達成感・成就感を味わえたことは、大きな成果となりました。

また、本校は、令和二・三年度中央区教育委員会研究奨励校の指定を受け、研究主題「豊かな心と健やかな体の育成」教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実」の下、教職員一同研究に邁進しております。十二月十日（金）に研究発表会を開催いたします。これまで本校が築いてきたものを土台に、新たな視点を盛り込みながら、子どもたちのために、実践的な研究を積み上げてまいります。

社会の変化に伴い、教育も大きく変わろうとしている昨今ですが、「不易と流行」のパラメータを常に考え、よりよい久松の教育を受け継ぎ、さらに発展させていきたいと思っております。本年度も、校友会の皆様を支えていただきながら、久松の子どもたちのために教職員一同力を合わせて、力を尽くしてまいります。結びに、久松の教育の一層の充実のため、そして、目の前に控えた、来たるべき百五十周年の素晴らしい記念の年に向け、引き続きの御支援・御協力をお願いするとともに、校友会のますますの御発展をお祈りいたします。

年度恩師あいさつ

雑感

昭和五十六年卒

四組担任

佐藤 孝

昭和四十八年、三月初め頃だったと思う。

私は、月島第一小学校のだれもない屋上に一人立った。その直前、校長から「久松小学校への転任の内示があった。」と知らされ、その喜びをかみしめたかったのである。

そして、四月に新校舎の落成と同時に、久松の一員となった。三十六歳だった。

その年の秋には、一年遅れて、当時の皇太子、同妃両殿下（今の上皇、上皇后）の行啓を仰ぐ創立百周年記念式典が控えていた。私は新任ながら伊藤忠夫校長から展覧会の責任者を任され、意気を感じて脳漿をしぼったことが思い出される。

また、昭和五十七年には、浩宮徳仁親王殿下（今の天皇）を迎えての百十周年と、初めと終わりに二つの大きな記念行事を経験する

幸運に恵まれた。

久松小での十年間は、私の教師生活で「最も輝かしい時」であった。この間、二回の卒業生を送り出し、その後の同窓会でも彼らの立派に成長した姿に接し、教師冥利を感じたものである。

私は、教育は「国家百年の大計」であり、日本を築く根本は教育によると考えている。一時、教育界でも悪評高い「ゆとり教育」による学力低下が案じられたが、その後、学習指導要領を見直し基礎力の充実が図られ、安堵したものである。私が今の青少年に特に望むことは、恥を知り、名を惜しむ「廉恥の心」を持ち続けてほしいということである。

さて、平成九年三月、六十歳で定年退職し、完全に自由身となった。嬉しかった。

「青春とは、人生のある時期をいうのではなく、心の様相をいうのだ。年を重ねただけでは老いない。理想を失う時にはじめて老いくる。」（サミュエル・ウルマン）

この理想を持ち続けたいと考え、思いつい

たのが世界めぐりである。海外旅行が自由化されて間もない三十二歳の時、香港、マカオ、台湾と一週間の周遊が自分を海外旅行の虜にした。

平成三十年十月にパスポートの期限が切れたのを機会に外遊は引退することにしたが、数えてみると、四十九年半で七十回、三十三か国・地域を回ったことになる。私は完成された欧米より自然や遺跡の多い地方に魅力を感じる。南米やアフリカ諸国などが特に印象に残っている。

私は決断が速く、やりたいことはすぐ実行する性格のため、失敗もあつたが多くのすばらしい体験をして、「我が人生に悔いなし」の思いが強い。

今、八十四歳、「老兵は死なず、ただ消えゆくのみ」の心境である。

晩酌と推理小説を友としながら、悠悠閑閑、静かに余生を楽しんでいる。

どんな五十二歳になったのか？

昭和五十六年卒

三組担任

小池 朱生

ロンドンにいる杉山君から一通の手紙が届きました。五十六年度卒業組が幹事年になっているのでコメントを書いてほしいということでした。何と！一ページ分というのです。一ページ分という三段分もあるのです。ちよつと長くて困りました。

そこでアルバムを見て思い出すことにしました。校長先生は既に亡くなれましたが、櫻井校長先生でした。この学年の担任は一組長塚先生、二組町田先生、三組小池、四組は佐藤先生でした。三組は男子十五名、女子十九名、計三十四名でした。三組のみんなと過ごした一番の思い出はなわとびです。有馬小学校の資料をもとにして三十一級から一級まで作りました。確かその上も作ったと思います。みんな上達が速く、特にすごかった

のは高野君が三重飛びができたことでした。休み時間のほとんどをなわとび検定で過ごしました。

幸いなことにみんなの書いたほくとわたしの夢という作文を保存していました。みんなの夢は次の通りです。

NHKのアナウンサー・通訳・音楽教室の先生・デザイナー・栄養士・美容師・歯科医師・バレリーナ・テニスクラブ作り・ホテル勤め・新聞記者・看護師・声優・総理大臣・大使・NASAの研究員・食堂経営・自衛隊入隊・オリンピックの体操選手・裁判官・巨人軍の選手・車の研究・マンガ家・久松小の校長といろいろな夢がありました。そしておもしろい事に必ず結婚年令をほとんどの人が書いていました。二十才から三十才まで一番多かったのが二十六才でした。この中で思いあたることがある人は何名いるのでしょうか？

皆五十二才になり、幸せな人生を送っていることでしょう!! 私は八十才になりました。

歌うことで生活のリズムを作っています。健康に気をつけて、またみんなに会えるのを楽しみにしています。コロナが終わりになることを祈りつつ……。



久松小学校で学んだこと

平成三年卒
二組担任
岸本 修二

「強く、正しく、豊かに」という久松の教育目標は三十年前も今も変わっていません。それが歴史と伝統ということだと思います。

私は平成元年四月から平成四年三月まで三年間久松に勤めました。五・六年生の担任は一組谷口先生、二組岸本、三組矢部先生でした。経験豊富な谷口先生は、学年主任として自分の学級はもちろん、学年の子ども全員の様子をよく観察し続けておられ、厳しくも温かい適切な指導をなさっておられました。三十代終わりの私と矢部先生は年も近く、笑顔で子どもたちと過ごす毎日でした。

久松で出会った子どもたちは皆素直で遊びにも学習にも熱心に取り組み、学力の高さも実感しました。一年生からの久松の先生方の指導力の高さが感得でき、自分も指導に全力

を尽くそうと覚悟したものです。

当時、久松では文部省の勤労生産学習の研究指定を受け、都心の小学生が農作物の生産活動をどれだけできるのか実践しました。学校の屋上の栽培園やプランターで稲やトマト、キウリ、ナスなどを育て、さらに大きな肥料用ビニール袋に土を入れ、ヒョウタンやカボチャ、綿、スイカもみごとに収穫できました。その一方中央区柏学園の畑へ出かけ、どの学校もサツマイモの苗植えと芋ほりをやっていました。久松小は特別に畑を提供してもらい、ジャガイモやトウモロコシ、ブロッコリーなども育てました。低学年児童に「ジャガイモはどうやってできるか想像して絵を描こう」と問うと、リングゴのように枝にイモがぶらさがった絵を描く子もいて、都会の子どもには勤労生産学習が必要だと思いました。実際の農作業は手間暇のかかる汚れ仕事です。でも子どもたちは喜んで活動していました。

久松では「けじめのある礼儀正しい校風」

が大切にされていました。月曜朝会での整列の様子、君が代の演奏による国旗掲揚、五分前行動、げた箱の靴の入れ方、水道の蛇口を下向けること、遊び時間終わりのチャイム静止などです。けじめのある行動のために一点集中主義、個人と全体、先の見通しを常に考えさせました。その圧巻は、卒業式の送辞・答辞を含んだ儀式の態度に現れていました。

五年生の館山臨海学校は二日目に台風が直撃したため三日目は電車で東京に帰ってきたこと、六年生の小諸移動教室は晴天に恵まれたものの十月下旬で夜は寒くて電気炬燵を出してもらったことなどが思い出されます。

子どもたちが卒業した翌年度の平成四年三月に挙行された百二十周年記念式典も大きな思い出ですが、ここでは筆を擱きます。

卒業：二十年に寄せて

平成十三年卒

学年主任

若月 ヒロ子

赴任二年目に五年生を担任。一組、若月。

二組、内に秘めたユーモアとブレイキ役で頼りになる宇田川先生。三組、抜群のセンスとアイデアでアクセル全開の片寄先生。信頼を軸に「ザ・久松」が結成されました。当初、私自身は天下の久松を背負う重責で倒れそうでしたが、新五年生に初めて出会った日、不安は吹き飛びました。「よろしくお願いします。」と、こぼれるような笑顔と菜の花のような明るさで迎えてくれた子ども達。稀に見る素直さと、クラスの枠を越えて男女仲の良い子ども達との日々に心癒されました。又、日を追う毎に分かる保護者の方々のチームワークの良さも学年の原動力となりました。

五年生の総合学習で取り組んだミュージカル。片寄先生、音楽のはるか先生の提案で夢

の実現。一組ビーターパン、二組不思議の国のアリス、三組オズの魔法使い。劇団顔負けの衣裳にクラスのカラーが出て、招待した園児達も大喜びで大成功をおさめました。とにかく歌舞音曲の得意な子ども達でした。

わんぱく相撲、バドミントン大会では、皆の声援を力に勝ち上がり、立派な成績を残し、心一つにして取り組んだ組体操とプラスバンドは「さすが、さすがの久松！」と会場を沸かせました。数々の行事を通して、久松の六年生としての自覚も芽生え、下学年からも慕われる優しい存在でした。事ある毎に、「校外に出たら、あなた達は久松の看板を背負っている事を忘れずに行動すること」という久松魂を見事に実践し、鎌倉へ向かう車内での態度の良さを乗客の方から褒められ、後日お手紙をいただいた事もありました。

六年生の学芸会は、斎藤隆介の名作「八郎」に挑戦。「二人一人が主役」をテーマに大熱演し、会場の涙を誘いました。終演後、拍手喝

采を浴びながら体育館から出てきた子ども達の達成感に満ちた誇らしげな顔は、二十年を経た今でも脳裏に焼き付いています。

卒業間近の謝恩会。寸劇「十年後の未来」劇中で交わす居酒屋での絶妙な台詞のやりとりは、今どきのお笑いに負けないのりで会場は笑いの渦。続く全員合唱・合奏。感謝の気持ちを込めた最高の演技を終えた直後、機転を利かした西村PTA会長の「プラーボー！」の掛け声は子ども達に想定外の喜びを与えて下さいました。心に残る最高のエールでした。そして迎えた卒業式。巣立ちゆく皆さんに贈る言葉は「感謝」の二文字。あれから二十年。光陰、矢の如し。共に過ごした輝かしい二年間は、私の宝物です。世の中は、コロナで大変ですが、長いトンネルの先の明るい未来を信じて日々過ごしましょう。皆さんの今後のご活躍を心からお祈りしています。

久松の思い出

平成十三年卒

二組担任

宇田川 嘉一

平成十一年四月の始業式。「大東京の中央に流れにそいてそびえたつ：」

子どもたちの元気な歌声が校庭に響き渡ります。新五年の担任発表。一組は学年主任・若月ヒロ子先生、三組は片寄玲子先生、そして二組の担任が私でした。宮崎和敏校長から紹介していただき、壇上で挨拶。私は久松小学校二度目の高学年の担任でしたが、とても緊張していたことを今でも覚えています。皆さんはと言うとまだまだ四年生の幼さが残っていました。でも一人一人の顔つきには高学年になったという自覚が感じられました。

五年生の頃を振り返ってみましょう。一番印象に残っているのは、二泊三日の館山臨海学園。東京では味わえない友達との宿泊生活グループごとにリーダーを決め、何事も自分

たちで進めました。波穏やかな館山の海、そして青い空。引率の私たちも皆さんと一緒に歓声をあげていました。泳力に合わせて水泳班をつくり水遊びや浮き身の練習。海岸線と平行にひたすら泳ぐ班もありました。宿舎に戻ると、園庭でのスイカ割り。顔中スイカの汁まみれになった顔が思い出されます。

平成十二年四月、六年に進級。最高学年となり、一段と凛々しい顔つきになってきました。学校行事でも対外的な行事でもリーダーとして期待された六年生。特にプラスチックでは休み時間も各自の課題に向けて練習を積み重ねていました。

春には鎌倉への遠足。鶴岡八幡宮や長谷の大仏など、豊かな緑に包まれた歴史的遺産を巡りました。九月に入ると水泳記録会。近隣の学校から六年生が集まり、自己ベストに向けてチャレンジ。十月には運動会。組体操・騎馬戦・棒倒しと五年生と一緒に競い合いました。プラスチックを中心とした鼓笛パレー

ドは下学年の憧れの的。「六年生になったら私もやってみたいなあ」こんな声が聞こえてきたものです。

思い出深い行事は修学旅行を兼ねた本栖移動教室。富士登山・青木が原のハイキング・木工教室・宿舎でのテールマルマナー教室など、その時々様子が思い出されます。また、学芸会では民話を題材にした劇を演じ、大喝采！懐かしい思い出はつきませぬ。

卒業から早二十年。皆さんはそれぞれの道を歩み、社会や家庭で大きな役割を果たされていることでしょう。現在のコロナ禍のような出来事、苦しいことや辛いことがこれからの人生にはあるかもしれません。しかし、久松小学校で身につけた強い意志や思いやり、人々や社会のために尽くす心を忘れずに、それぞれの立場でご活躍ください。

みんなでつくった総合芸術

平成十三年卒

三組担任

片寄 玲子

平成十三年卒業の皆さんは、私が品川区より異動し久松小学校に着任してすぐに受けもった子供たちです。

その頃の久松小学校は、ベテランの五十代の先生方が大勢いらっしゃり、それまでの学校では同年齢の仲間がたくさんいた私も、ここでは下から二番目で、先輩方から伝統を受け継ぐ中堅として、学ばせていただく日々でした。

学年を組ませていただいたのは、若月ヒロ子先生、宇田川嘉一先生です。学年主任の若月先生はとにかくパワフルで、駄目なものも駄目と厳しくも温かく徹底的に子供たちを育て、保護者を啓発していらっしゃいました。宇田川先生は、教科研究に熱心で豊富な知識と経験で子供たちの自主的な学びを促し伸ばし

ていらっしゃいました。多くのことを吸収させていただきましたが、中でも印象的なのは学芸会です。三人で役割を分担し、様々なアプローチで齋藤隆介氏の名作を総合芸術に仕上げました。私は、「芸術組」と名付けた、演奏と影絵で作品を盛り上げるグループを担当しました。「花咲き山」の主人公の女の子と花畑のシーン、「三三」の山火事で動物たちが逃げ惑うシーンや主人公がみんなを助けにかけつけるシーンを影と色セロハンで美しく表現した影絵。やさしい主人公の心根を表す美しいリコーダー、救済のため全力で走る主人公のエネルギッシュな様子を表す太鼓。太鼓は、バケツに皮がわりのガムテープをパンパンに張ったオリジナル楽器です。大勢ならんで一斉に同じリズムを打ち、それに合わせる篠笛の旋律とともに物語を彩りました。

若月先生が、夜なべをして主人公が持ち上げる「山」を手芸で作りました。宇田川先生は、腰痛を隠しながら大道具づくりに演技指

導に駆け回りました。みんなで作り上げた劇は、まさに総合芸術でした。今でも、歌のメロディやみんなの演技の様子、せりふ、影絵のシーンをよく覚えていきます。

今は、隣の区に勤めています。東日本橋の病院や、浜町の伝統工芸の工房にはよく出かけています。久松小学校の校舎はさらに立派になり、みんなが三角巾とエプロンの掃除の恰好で遊んでいた公園との間の道路もきれいになりましたね。学んでいる子供たちは、きっと伝統を引き継ぎ、「一日一日を大切に」くらしていることでしょう。

あの頃の子供たちも大人となり、それぞれに選んだ道を進んでいることと思います。

「三三」の中に「ダメダと思ったときがダメなんだゾウ！」というせりふがあります。私も負けずに、もうひと踏ん張りです。

平成二十二年度を振り返って

平成二十三年卒
一組担任
荒川 弘樹

平成二十二年度に、一年間、担任をさせていただきました。一年間でどこまで子供たちを成長させられるか不安を持ちつつも、子供たちと最高の卒業式の日を迎えようと強く決意したことをよく覚えています。

そして、運動会や本栖移動教室、音楽会、鎌倉遠足などの行事を中心に、子供たちは、私の期待以上に大きく成長していききました。

学校生活もいよいよ卒業式を残すのみとなりましたが、ここで、最も忘れられない出来事がありました。東日本大震災です。

平成二十三年三月十一日十四時四十六分、当時の記憶をたどると、ちょうどその時間帯は、卒業式の練習をしていたと思います。

五校時の体育館での練習を終えて、休憩のため、一度、三階の図書室で待機していたときに地震は起こりました。

いつもの地震とは違う体感から、これまでに経験したことがない大きな地震であることはすぐに分かりました。あまりの出来事に泣き出す子供もいました。

そして、校庭へ避難をし、保護者に子供たちを引き渡しました。その後も、地域の方や帰宅困難者、約三百名を学校で受け入れ、夕食や朝食の炊き出し等、教職員・地域が一体となって対応しました。私を含めて、数名の教員は、学校に泊まることとなりました。

学校もすぐに再開されましたが、一つ問題が起こりました。体育館の天井の一部が破損し、しばらく体育館が使用できなくなったのです。

当然、卒業式の練習も体育館ではできなくなりしました。そして、最悪の場合、体育館で卒業式ができない状況となりました。

当時の校長先生、酒井寛昭先生や、三瓶真紀子先生、松岡秀子先生、PTAの宮本さん、吾郷さんと卒業式の在り方を話し合いました。近隣の有馬小学校を借りて実施する案もあ

りましたが、体育館は使えなくても、校庭で実施するなど、久松小学校で卒業式をさせてあげたいなどの保護者の思いも伺いました。結果的には、卒業式の数日前に修理が完了し、無事に挙行できましたが、数多く卒業式を経験してきた私にとっても忘れられないものとなりました。

さて、最後に私の近況ですが、平成二十六年まで久松小学校に勤務しました。その後、東京都教育庁へ異動となり、現在は、東京都小笠原村に勤務しています。

小笠原小学校の校長室には、藤村雄二元校長先生の写真も飾られており、ここでも久松小学校との縁を感じています。

なかなかすぐに皆様とお会いできませんが、久松小学校の益々のご発展を祈念するとともに、よき伝統と校風を基に、子供たちがさらに、強く・正しく・豊かになっていってほしいと願っています。

昭和五十六年卒

絆は幾難も乗り越越える

令和三年校友会実行委員長

三組

杉山 寿英

コロナがこんなに世界に拡大し、長期化するとは中国・重慶で初めての例が確認された時点で誰が考えていたのでしょうか。遡ると10年前、卒業30年目で迎えた平成23年は3月11日に東日本大震災が発生して暫くした中の校友会でした。大変大きな出来事が重なる10年周期ですが、まずは同窓生および皆様が元気にお過ごしであることを祈りいたしております。

思い返せば10年前は残念ながら私自身校友会には然程？前向きでなく、校友会当日は間際で声がけた10名程度のメンバーと3組の担任であった小池先生を囲んでこじんまりとした会を小学校の教室にて実施する程度でした。しかしながら、年次的にも久しぶりに会っ

たメンバーとの「絆」を感じ、年内に再び多くの56年卒で再会することを誓い、11月に50名超での同窓会が実現に至りました。30年の月日とはいろいろとありますね……。

時は流れて、10年後代表年度幹事を担当する卒業40年目である今年には、より多くの同級生を交えての同窓会を実施したいという思いがあっただけに、残念でなりません。これは世界中の方が、感じている部分ではあります。

とはいえ、繋がりとという点だけを見ると、10年前には同窓会を実施するに際して各クラスがメンバーがSNSで探し当て連絡。昨年・今年においてはオンラインでの打ち合わせや巷ではやったZOOM飲み会での「プチ同窓会」開催とIT技術の進歩の恩恵を受けていることも確かです。お陰様で現在私はロックダウンで皆さんから心配されているロンドンにおりますが、日本のメンバーと気軽にそして安価に繋がれている状況に大いに感謝している一人です。但し、「それでいいんだっけ？」と言われれば、いいと感じる人は

いるわけがなく、本当であれば皆で集い、笑い、昔話に花を咲かせる同窓会で再び「絆」や「繋がること」の大切さを直に感じたい。56年度幹事のZOOM飲み会において、必ずやまた恩師をお招きしての大同窓会を開催し、直接再会することを皆で固く決意しました！

何故なら

……。実際はZOOMに入れないとか、一斉にしゃべるとか、周りの音を拾うとか、ITリテラシーも人それぞれ……。やっぱ実際に会わないとダメですね。



平成三年卒

あたらしいふつう

一組 田中 信太朗

卒業から30年。まだ若い、まだ若い……と自分を論ずるように生きてきましたが、気がつけばすっかり「中年」に足を、いや体ごと浸かっている年齢になってしまいました。

我々の世代は他学区から通う人も多く、また卒業後は私立中学に進学する同期も多くいました。皆、新しい環境で新しい人間関係が構築されていくということもあり、卒業から時が経つほど、同期との繋がりは否が応でも薄れていってしまったような気がしています。

そんな我々世代が今では結構頻繁に連絡を取り合い、「寺崎君のお店に飲みに行くことになったので……」「イギリスにいる小山さんが今度日本に帰国するので……」なんて理由でちよくちよく集まりの場を持つようになりました。そうなったのも、ちょうど私たちが成人する前後に日本で普及し始めたインター

ネット、そしてSNS（ソーシャルネットワーク、キングサービス）の存在とSNS上での同期との交流があったからでした。

きっかけは、十数年ほど前にmixi（ミクシイ）という招待制のSNSで加藤君が「久松小91年卒」という同期グループを立ち上げてくれたことでした。グループに少しずつ人が集まるようになり、薄れていたたはずの繋がりが徐々に戻っていききました（むしろ以前よりも濃くなったような？）。交流が復活しはじめた頃は「なんて画期的なサービスなんだ」と感動を覚えましたが、もう今ではすっかりなじんで、「あたらしいふつう」に。その後、交流の場はFacebookやLINEといった別のサービスに移り、そして続いています。

コロナ禍が続く最近では、リアルで会うこともなかなか難しいということもあり、先日、一部で話題のWeb会議サービスを利用した「オンライン同窓会（飲み会）」を同期の有志と開催しました。仕事場から参加する人、照れ臭そうに会議画面に入っつこようと小さい子どもがいる人、時差9時間の遠い地か

ら参加する人など、参加メンバーは多種多様な千差万別。対面で会うのがやはり一番楽しく、うれしくもあるのですが、そんな状況を垣間見ることが出来るのもオンラインならでは。

まだ新型コロナウイルス感染拡大の収束が見えない今ではこういうスタイルが「あたらしいふつう」になっていくのかもしれない。これが「新しい」で終わるのではなく、「普通」になっていくということは、多種多様な価値観やそれぞれの立場を理解し、受容する気質のある同期がいたからこそではないかと思っています。



平成十三年卒

はじまりの場所

二組 馬淵 良介

「皆と出会って、もう二十六年か…」

久松小学校入学から二十六年が経つ今年、二歳の息子を連れてよく久松小の隣の通称・みどり公園（二十年前は綺麗に整備された現在とは異なり木が生い茂っていて、そう呼ばれていた記憶があります。）に行く私は、増築された校舎を見上げ感慨にふけています。

時間の経過があつという間だったような、長かったような、そんな両極端な不思議な感覚になるのは、小学校六年間の思い出と同じくらい卒業後の同級生との思い出が濃かったことを証明しているのかもしれませんが。特に二十年は、私達平成十三年卒は継続的に交流を続けています。二十名前後が集まった（なんと久松の途中で他校へ転校してしまった参

加者達も）、パーベキュー、海辺のコテージへ旅行、毎年の新年会・忘年会。個人的にも少人数グループで、世界一周旅行、ハワイ拳式大晦日のゴルフ、そして何より「今日飲もう」の一言で人形町に集まる日頃の飲み会…再会のきっかけとなった、成人式、今は廃れたミクシイ、フェイスブックに感謝です。

もしも今卒業文集を書くことになったら、ネタが多すぎて書くのが不可能なくらいの溢れる思い出の数々。それもこれも久松が無ければゼロだったのです。この二十六年の付き合いの特別な場所です。クラス分け隔てなく仲がよいこの学年を築いてくださった当時の担任の先生方、ありがとうございます。同級生の皆、今までありがとう、今後も末永くよろしく！

そして最後に、これからも全卒業生の「はじまりの場所」として、わが久松に光があり続けることを願っております。



故人を偲ぶ

斎藤さんを偲んで

昭和四十六年卒業
校友会庶務

大野 由貴子

庶務係の私は、原稿受け渡しだったり、各種手続きのため、斎藤さんと打ち合わせする機会が一番多かったように思います。

昨年六月、校友会副会長であった斎藤さんとのお別れは突然でした。

コロナウイルスで世間がワラワラしだし、マスク不足が騒がれていた不安な日々を送っていた頃でした。

突然の訃報に頭が真っ白になりました。これまででは何かと言うと斎藤さんの会社へ伺ってご相談する事が多かった私に、暖かい励ましの言葉を頂いたお陰で続けてこられたのですが、もうその優しさに触れることもできな

いという思いが、ひしひしと胸に迫ってきました。

今思い返せば、斎藤さんが校友会のためにどれ程ご苦労なさっていたのかを、改めて思う日々です。

運営委員会の中でも、彼はムードメーカーでした。「ちよつと聞いて下さいよ〜」で始まり「大変なんですから」と柔らかなお顔で提案していらつしゃいました。

同級生のいろいろな職種から、ご自分の仕事にプラスになることも多く、これも久松ならではの繋がりではないかとおっしゃっていたことも思い出します。

亡くなる数日前まではラインで繋がっていましたが、最後の連絡は「原稿返却を終了しました。お疲れ様。」でした。斎藤さん本当にお疲れ様でした、そして有難うございました。

合掌



斎藤さん発案の「久松小学校校友会特製ノート」です。ご寄付、基金を一万円以上頂いた方に差し上げることになりました。

大先輩からのおたより

来秋予定の百五十周年式典

昭和二十七年卒業 渡辺 俊夫

昭和三十八年、実行委員としての九十年式典が、私にとって最初の経験である。以来、何らかの立場で全てのアニバーサリーに関わってきた。他校の式典参列を含めると、四十回ほどになろうか。それぞれに時代背景、学校文化、校区事情が窺える。

あの時、控えめな伊東金造校長に打たれた日頃「自分は田舎者」を標榜。姿勢を低く保っておられた。「久松小に着任し、思いがけず天皇皇后両陛下の行幸啓に巡りあった。晴れがましい結果は皆さんのお蔭」が口癖。周囲と同じ地平に立つ姿は、当時の実行委員の誰もが心に刻んでいたはずだ。

式典の後、校庭に大テントを張って祝賀会。お開きになって、私は校長室へ挨拶に伺った。

お訪ねしたとき、咄嗟にハンカチをポケットに収めたのだろう、感極まり目を真っ赤にしておられた。早々に辞去した思い出がある。

本来の開校記念日は三月九日。負荷の多いこの時期を避け、前年秋開催が最近の慣例になった式典。社会状況を踏まえ催行したい。他校では式典縮小、祝賀会中止など、現実に沿った例が多い。いま、未知の病原体・新型コロナウイルスに世界が立ち竦む。直面したのは、人間とは何か、人はどう生きるべきか、という重いテーマだ。

過去の盛儀は、必然の準備・当然の成果で異論はない。が、今度は事情が異なる。久松小が「公立」である意味を熟考すべき。本校とは無関係の区民・都民の税金も使われているのである。遡れば、地元住民にも学校設立の資金拠出を求めている。子どものあるなしに拘わらず、要請を行っていたのだ。それに応じた庶民の奉賛記録も見た。

〈通塩町住民一同・一金五拾圓〉、〈米沢町三

丁目住民一同・一金二十四圓三拾七錢五厘〉、〈薬研堀壹番地より式拾七番地迄住民一同・一金拾参圓五十錢〉、〈久松町四番地五番地六番地地借一同・一金拾圓〉などなど。その場面が目浮かぶようだ。尊い淨財である。

学区は商業地として栄えてきただけに、コロナ禍による地域経済のダメージ、家庭への影響を考慮したい。深い洞察で百五十年の間軸を捉え、先人の努力や地元の庇護に感謝する要素が大切。「現役・在職の関係者中心で盛り上がる」のは避けたい。初等教育の先達としての矜持も試される。学校自らが社会貢献に向かう心も持とう。具体策はいくらでもある。これまでの恩返しをしよう。

準備委員会も立ち上げられない昨年七月、私見を文書化し植村洋司校長に提出した。僭越であったが、歳に免じてお許しを。

失礼ついでにもうひとつ。いま児童数は約八百。先ごろ増築工事が終わったばかりであるが、既に手狭。職員室、資料館などの移動

を余儀なくされた。資料館関係について相談に乗ってほしい、と植村校長の依頼で訪問。

今春着任された藤山由仁副校長とも詳細を打ち合わせた。トップのお二人が、謙虚な姿勢で臨んでおられるのを知って安堵した。

異動で各校を回る公立校の先生方は、赴任先の学校・地域について一番知らない人たちなのだ。校史、郷土史の通暁に不安が。教育者は日頃「歴史・伝統」が常套句であるが、学習指導要領の文脈に過ぎず、自身の知見が基ではない。過去、しばしばその痕跡を見てきた。無論、先見性や探求心のある先生もおられたが、任期と共に去って行かれた。

資料館については問題点を文書化。予定される百五十周年の記念誌発行にも付言した。

稀に良い企画もあるが、これは各校、類型的。周年に出合った人たちの「記念文集・写真集」だ。多額の予算に見合っていない。記念誌は「歴史書」であることが第一義。母校の来し方を正しく理解し、丁寧に紡ごう。五

冊、十冊と蓄積された時、「手に取る資料館」になる。

試みに二枚の写真（同館蔵）を「並べる」。緑川に架かっていた高砂橋の南西から同じ方向を定点撮影。しかし、校舎が両側に分かれている。両側の欄干にご注目を。決して「裏焼き写真」ではない。

木造校舎時代、「羽生医院」や「吉田屋」の側に学校があった。震災後、各学校には公園併設が義務付けられ、通りの反対側（現在地）に移ったのである。

配列次第で児童の理解は深く豊かになる。この二枚、冊子では別々のページ。資料館では異なる展示空間にあった。折角の好材料が生かされていない。校舎移転の事実を知らない先生方に隔靴搔痒だった。しかし、「学校がやることに口を挟む」のはためらわれた。いつか気付いて下さると期待していたのだが……。

（校友会元会長）



関東大震災前の木造二階建て校舎
現在地の向かい側に建つ
玄関は緑川に面していた



震災復興後の鉄筋コンクリート三階建て校舎
昭和4年竣工・現在地に移転した
昭和48年、現校舎に生まれ変わる

こんまりさんと久松小学校

昭和四十六年卒業 磯部 恵子

還暦を過ぎ、来し方を振り返ったとき、多くの師に出会い、育てていただいたことを思い出す。お世話になった先生方、お一人お一人を思い出すと懐かしく胸がいっぱいになる。すでに鬼籍に入った先生方もいらっしやるが、最近では私よりもはるかに若い師に導かれることも少なくない。

十年前、五十二歳のときに、何人目かの「人生の師」に出会った。その方は、当時二十六歳だった片づけコンサルタントの近藤麻理恵さんである。

当時、私は自室の片づけに悩んでいた。姑と同居していたので家族共有のスペースは何か乱雑にならないよう保っていたが、自室にはクローゼットに収まりきらない服や、本棚からあふれた本や書類、何となく取っただけの小物類が、無秩序に存在していた。

何冊もの片づけ本を読んだり、有名な先生の「収納セミナー」にも参加したが、根本的解決に至らぬまま、いたずらに年月が過ぎて

いった。ところが二〇一一年の冒頭、「人生がときめく片づけの魔法」に出会い、私の人生は大きく転換し始めた。この方法なら必ず片づけられると確信できたのである。すぐに、こんまりさんのセミナーや講座、さらに個人レッスンも受け、長年の懸案であった片づけを終えることができた。

片づけレッスン中に忘れられないエピソードがある。私の机の上に無造作に置かれていた「久松校友会だより」に目を留め、「これは？」と聞かれた。「母校の同窓会が先週あったばかりで……」と答えると、「私も久松小学校の卒業生です。卒業以来、同じ小学校の卒業生に会ったのは初めてです」と言われた。びっくりするとともに、とてもうれしかったが、片づけレッスン中で、小学校の思い出などをうかがう心の余裕がなかったことが、今思うととても残念だ。

その後、ご本人の著書や、直接お聞きした話、ウェブ記事などで小学校時代の思い出をいくつか知ることができたので少し紹介しよう。

五歳から主婦向け雑誌を読み始め、片づけに目覚めたこんまりさんは、小学校時代は自ら「整理整頓係」に立候補し、休み時間は一

人で教室の片づけをしたり、校内をうろろろしていた。それは、「三人兄弟の二番目で、親に迷惑をかけないよう、子供ながらに気をつけたい、人に頼らず生活したい」という意識があったから」と著書で告白している。

ちなみに「こんまり」という愛称は小学校六年生の時に自分でつけたとのこと。こんまりさんは小学校時代から、すでに「こんまり」だったのだ。

今やその著書は累計一二〇〇万部を超え、世界四十カ国以上で翻訳されている。また、Netflixで配信中の「KonMari〜人生がときめく片づけの魔法〜」シリーズは、世界百九十九カ国で視聴され、二〇一九年度の全米ドキュメンタリー部門で第一位になるなど、まさに「世界のこんまり」だが、その原点が、わが久松小学校時代にあるというのは、なんとも誇らしい限りである。

私も、こんまりさんのお手伝いをしたいと思いい、三十四年間続けてきた教員を辞め、五十六歳のときに第二の天職（と自分で思っている）片づけコンサルタントに転職し、今に至っている。片づけが苦手だった私だからこそ、片づけで悩んでいる人に寄り添えると

思っている。こんまりさんも、今でこそ片づけのカリスマのように思われているが、実は片づけても片づけても終わりが見えず、片づけノイローゼになり、ある日、自分の部屋で気を失ったというエピソードまである、「もと片づけられない少女」だった。

「人は自分の弱みを克服したときに最強になる」とは、こんまりさんの夫であり、こんまりプロデューサーの川原卓巳氏の言葉だ。

私ははじめ、自分の得意を生かして教員になったが、第二の人生では、私の弱みが強みに変わった。こんまりさんの原点が小学校時代の整理整頓係であったように、私の原点もまた、小学校時代の恩師の授業にあった。私が国語の教師になりたいと思ったきっかけは、二年生と三年生の時の担任だった勝田令子先生の影響が大きい。そして図らずも小学校を卒業してちょうど四十年目に、同窓生のこんまりさんと出会い、第二の人生のスタートとなった。

私の座右の銘は「われ以外、皆わが師」だが、とりわけ久松小学校にご縁があるこの二人の師（年齢差五十歳！）が、私の人生を大きく導いてくださったことに感謝したい。



自宅玄関前で。小柄なこんまりさんは妖精のような可愛らしさでした。

小学校を卒業して半世紀、時代は大きく変化した。だが、そこで過ごした六年間は、宝物のように輝いて見える。校歌の一節「緑は深し 年々に」を心に留め、己の中にある「緑」を年々深めていける人生でありたいと願う。同じ「久松」という太い幹に連なる枝の先一枚の葉として、母校並びに校友会の発展と、同窓生の皆様の活躍を祈るものである。（こんまり流片づけコンサルタント）



米国から一時帰国中のこんまりさんとツーショット。「片づけで日本をときめかせる！」と改めて決意した日でした。



2012年6月 こんまりさんの個人レッスンで「片づけ卒業認定」をいただきました。

中央区立久松小学校校友会会則

- 第1条 本会の名称を中央区立久松小学校校友会とする。
- 第2条 本会は、会員相互の親睦、情報交換、母校のより良い教育環境構築へ支援を図ることを目的とし、特定の政党、宗教等の活動の場としてはならない。
- 第3条 本会会員の構成は下記の通りとする。
- ・正会員 久松小学校の卒業生および在籍した者
 - ・特別会員 久松小学校の職員ならびに旧職員
 - ・名誉会員 終身名誉会員である久松昂子氏とする。
- 第4条 本会の運営は、久松小学校校友会運営委員があたり、下記の運営委員をおく。
- ・会長 1名
 - ・副会長 若干名
 - ・書記 正副各1名
 - ・会計 正副各1名
 - ・編集長 1名
 - ・庶務 若干名
 - ・委員 数名
 - ・監査役 2名
- いずれも正会員中より選出する。
- 尚、運営委員とは別に相談役を置くことができる。
- 相談役は過去の運営委員（旧名称：常任幹事）から運営委員会の議決をもって選出する。相談役は、運営委員会から相談された時、適切な助言をするものとする。
- 第5条 会長の任期は1期2年とし、最長で4期8年とする。
- 副会長、運営委員、監査役の任期は1期2年とし、再任を妨げない。
- 相談役を除く役員任期の最終期限は卒業60年目とし、当該年の総会終了をもって定年退任とする。
- 第6条 本会の総会は毎年1回、5月第4日曜日に開催する。
- 通年の活動のうち、総会開催に向けての一連の作業は、卒業後10年、20年、30年、40年を迎えた学年に当番年度幹事を依頼し、運営委員との連携のもとに行われる。
- 第7条 必要に応じて、臨時総会を開催する。その時期は運営委員会により決定される。
- 第8条 本会の運営は入会金、会費、寄付金、基金等により維持する。
- 尚、会計期間は毎年7月1日から翌年6月30日とする。
- 第9条 本会の収支決算は監査役の監査を経た後、運営委員会、総会の順に承認を得る。
- 第10条 本会の事務局は、〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町7-2 中央区立久松小学校 03-3661-6106内に置く。
- 第11条 本会則の変更は、運営委員会にて協議、議決し、総会において出席会員の過半数の同意を得て変更できるものとする。
- 総会を欠席する会員は、委任状による賛否の意思表示を可能にする。
- 但し、委任状無く欠席した場合は棄権とみなすものとする。
- 第12条 本会の運営上、想定外の事態が起きた場合、必要に応じ、母校、及び関係各団体等と十分な連携を図り、より良い結論を得るよう努力する。
- 第13条 運営委員及び相談役の行動には公明正大さが求められる。本会の活動

理念に違背する行為があった時、運営委員会で慎重審議のうえ、解任・除名を行う。

第14条 本会則に無い事案については、運営委員会で誠意をもって協議し決定するものとする。

内規 第4条、及び第13条に関して

- ・校友会会長は、組織の独自性を守り、校友会の代表として純粋に機能する為、母校PTAまたは久松睦会の会長を兼任する事は出来ない。
- ・運営委員及び相談役はその肩書きを利用して、個人的な営利を図ることができない。
- ・相談役は、その知識・経験を会の運営に生かすよう運営委員会との連携を心がける。

本則／平成26年5月施行。

※平成21年5月 久松昂子氏を終身名誉会員に推戴。

私ども、校友会運営委員会（旧名称：常任幹事会）は、校友の皆様の活動をより円滑にし、又、自分達の目的の確認や職務分掌を明確にするなど、自身の運営委員会の資質をより正しいものとする為、平成26年1月1日に会則を作成致しました。

中央区立久松小学校校友会運営委員一同

中央区久松小学校校友会 運営委員会会則

(名称及び事務局)

第1条 本会は「中央区立久松小学校校友会運営委員会」と称し（以下、本会とする）、事務局を東京都中央区日本橋久松町7-2、中央区立久松小学校（以下、母校とする）内に置く。

(目的)

第2条 本会は、母校校友会の会員相互の親睦等を目的とする母校校友会の会の趣旨に則り、その円滑な運営を活動の目的とする。

(活動内容)

第3条 本会は、前項の目的を達成するために次の事項を行う。

- (1) 母校校友会の総会の開催に関する事
- (2) 母校の記念行事ならびに事業に協力すること
- (3) 機関誌「校友会だより」の発行・発送に関する事
- (4) その他、目的達成に必要な事業に関する事

(運営委員会)

第4条 本会には次の運営委員（以下、会員とする）を置く。

- 会長（1名）、副会長（若干名）、書記（若干名）、
- 会計（若干名）、編集（若干名）、庶務（若干名）、
- 委員（数名）、監査（若干名）、総会サポーター（若干名）

尚、運営委員と別に相談役を置くことができる。

(会員の定義)

第5条 会員は母校校友会を応援して下さる方とする。

尚、相談役については過去の本会（旧名称：常任幹事会）の運営委員より選出する。

(会員の職務)

第6条 (1) 会長は本会を代表し会務を総括し、総会における議長を担当し、最終決裁を行う。

(2) 副会長は会長を補佐し、会長不在の場合はその職務を代行する。また、会長が最終決裁をできない状態にある時は、副会長のうちの一人が会長に代わって最終決裁を行う。

(3) 書記は会長の指示に従い本会の記録事務を総括し、総会時に事業報告を行う。

(4) 会計は会長の指示に従い本会の会計事務を総括し、総会時に会計報告を行う。

(5) 編集長は会長の指示に従い、機関誌「校友会だより」の編集を行い、毎年4月上旬に発行する同誌を遅滞することなく、校友会会員に配布する。

(6) 庶務は会長の指示に従い本会の円滑な運営のための事務作業を統括する。

(7) 監査は本会の実施事業および会計事務を監査し、総会時に監査報告し、総会での承認を得る。

(8) 相談役は会員から相談があった場合に、その案件に関して必要な助言を行う。

(9) 総会サポーターは、総会開催の前日及び当日の準備、設営、運営、撤収などの実施作業全般を担うものとする。

(任期)

第7条 本会会員の任期は2年とし、再任を妨げない。

但し、会長については初任期間を含めて通算4期8年間を限度とし、いずれもその任期の最終期限は卒業後60年目とし、当該年の総会終了をもって定年退任とする。

(会議)

第8条 (1) 総会

総会は本会の最高議決機関であり、原則として毎年5月第2金曜日に開催する。また必要に応じ、運営委員会の臨時総会を開催することができる。その時期は本会によって決定される。

(2) 正副会長会議

同会は会長が招集し、月次運営会議（次項参照）を円滑に進めるため、議題について話し合う。尚、必要に応じ、議題に関する会員等の参加を認める。但し、意思の合意、議決の誘導の場としてはならない。

(3) 月次運営委員会

同会は総会に次ぐ議決機関であり、原則的に毎月第二金曜日に会長が招集する。総会に提出する諸議案や同会で協議した各種議題の実施内容について議決する。尚、議決にあたっては、相談役を除く会員の

うち出席者の過半数により可決する。

(4) 当番年度幹事・運営委員合同会議

当番年度とは、卒業後10年、20年、30年、40年の年度を指し、その学年に幹事を依頼し、会長が招集し、総会当日まで会員と連携し、「校友会だより」の作成、総会運営に関する打ち合わせを行う。

(5) 事務局

事務局は母校内に置かれ、常駐するものはないが適宜に母校側と連絡を取り、本会に関する諸行事が遅滞なく進行できるよう主に庶務が担当し全体的な連絡・調整を行う。

(会計)

第9条 本会に要する経費は運営委員会の決定により、入会金、会費、寄付金、基金等により維持するものとする。尚、会計期間は毎年7月1日から翌年6月30日とする。

(母校との連携)

第10条 本会が必要に応じ、母校および関係各団体等と十分な連携を図り、各種事業の実施を行う。

(休会及び解任)

第11条 会員の心身等の理由により職務の執行に耐えない時、または会員にふさわしくない行為があった時は本会の議決により休会もしくは解任することができる。

(除名)

第12条 会員が次の各号のいずれかに該当する時は、同会の議決により除名することができる。

(1) 母校の名誉を傷つけ、または校友としての品位を害する行動、言動があった時。

(2) 校友会の秩序を乱した時。

(3) 故意、または重大な過失により、母校、校友会、もしくは本会に損害を与えた時。

(会則の変更)

第13条 会則の変更については、本会則第8条3項により、本会月次運営委員会に於いて協議・議決される。

第14条 本会則に無い事案については、会員の誠意をもって協議し決定するものとする。

(附則)

この会則は令和2年3月9日より施行する。

本会則に記載あることに相違ありません。

東京都中央区日本橋久松町7-2

中央区立久松小学校 校友会 会長 川口修一郎



今年の年度幹事（昭和56年、平成3年、平成13年、平成23年卒）の皆様、本当にご苦労様です。ありがとうございました。

運営委員大募集です！

校友会運営委員会では、運営委員を募集しています。

毎年の5月の総会に向けて、通常毎月1回、母校等に集まっていただき、話し合いや打合せに、参加していただきます。お仕事や家事・子育てにお忙しいと思いますので、時間が許す範囲で十分です。今後の校友会の維持と発展のためには、皆さんの「熱意」が、よりどころです。どうか私たちに力をお貸し下さい。

住所が変わられた方やマンションにお住いの方へ

ご住所が変更になり、転送先にて「校友会だより」をお受け取りになられた方は、転送期間が過ぎますとお届けが出来なくなります。マンション名が記載されていないとお届けが出来ないケースもあります。

クラス会などで「校友会だより」を受け取っていない方がいらっしましたら、その方もお届けできないケースになります。

上記に該当される方は、下記の①郵送、②Email、③ホームページのいずれかにより、引越先住所やマンション名をお知らせいただけませんか？お一人でも多くの会員の方に「校友会だより」をお届けしたいので、ご協力をお願いいたします。

また、クラス会名簿はありますか？クラス会名簿は、校友会の輪を拡げるためにも役立ちます。一部分でもお持ちの方は、下記までご連絡ください。

「個人情報取り扱いについて」に則して利用させていただきます。

①郵送 〒103-0005
東京都中央区日本橋久松町7-2
中央区立久松小学校内 校友会事務局

②Email hisamatsu.es.koyukai@gmail.com

③ホームページ（2021年5月より）

<https://www.hisamatsu-es-koyukai.com>



校友会ホームページ

校友会運営委員一覧

- ◎会 長 川口修一郎 (昭53)
- ◎副会長 杉山寿英 (昭56)
- ◎書 記 中谷久子 (昭37)
- ◎会 計 橋詰阜佐枝 (昭34)
- ◎編集長 三部 健(昭51)
- ◎庶 務 大野由貴子 (昭46) 三部 健 (昭51)兼務
- ◎委 員 倉谷通孝(昭47) 渡辺政博(昭51) 矢川春文(昭54)
大塚ふさ子(昭56) 齊藤淳子(昭56) 関戸菜美(昭56)
前澤佐代子(平14)
- ◎監査役 説田好伸 (昭37) 廣田隆之 (昭57)
- ◎相談役 中村正信 (昭37)
- ◎総会サポーター 宮島裕美 (昭46) 松下久子 (昭46)
江藤照美 (昭54)

令和元年度事業報告

2019 (令和元) 年 7 月 1 日～2020 (令和 2) 年 6 月 30 日

書記 中谷久子

月・日	
〈令和元年〉	
7・26	浜町コミュニティールームにて運営委員会
8・30	浜町コミュニティールームにて運営委員会
9・13	浜町コミュニティールームにて運営委員会
10・5	母校2階会議室にて年度幹事と学校側の初顔合わせ
10・24	浜町コミュニティールームにて運営委員会
11・16	浜町コミュニティールームにて運営委員会
〃	母校2階会議室にて年度幹事会
12・21	浜町コミュニティールームにて運営委員会
〈令和2年〉	
1・8	賀詞交歓会に会長と相談役出席
1・10	浜町コミュニティールームにて運営委員会
1・18	母校2階会議室にて年度幹事と合同幹事会
2・8	浜町コミュニティールームにて運営委員会
2・22	浜町コミュニティールームにて年度幹事と合同幹事会
3・6	浜町コミュニティールームにて運営委員会
3・14	浜町コミュニティールームにて年度幹事と合同幹事会
3・15	浜町コミュニティールームにて運営委員会
3・21	浜町コミュニティールームにて運営委員会
3・27	浜町コミュニティールームにて運営委員会
4・10	母校2階会議室にて運営委員会
5・10	東日本橋会館にて運営委員会
5・24	母校2階家庭科室にて運営委員会 (新型コロナウイルス感染症の影響で校友会は中止)

訃報

田口清子先生、木島トク子先生
ご冥福をお祈りいたします。

令和元年度会計報告

収支報告書

2019（令和元）年7月1日～2020（令和2）年6月30日

取入の部		支出の部	
前期繰越金	629,522	《会誌関係》	
《会誌関係》		本誌（発行6,100部）	572,000
広告	935,000	発送費	444,549
基金	376,000		
《総会関係》		《総会関係》	
		総会運営費	102,509
《運営関係》		《運営関係》	
入会費	76,000	卒業記念品（シャープペンシル）	78,375
年会費	166,000	慶弔費	29,000
受取利息	3	出席交通費	64,840
雑収入	2,599	振込手数料	31,410
		通信費	3,350
		ホームページ準備費	44,000
		事務費	2,429
		常任委員会費	15,983
		周年行事基金積立繰越金	474,664
150周年基金	474,664	次期繰越金	796,679
	2,659,788		2,659,788

周年行事基金積立金 残高報告書

前期積立繰越金残高	591,625
当期積立繰入金	474,664
	1,066,289

資産報告

預貯金	1,853,451	次期繰越金	796,679
現金、電子マネー（ナナコ）	9,517	周年行事基金積立金	1,066,289
	1,862,968		1,862,968

上記の通り報告いたします。

会計 橋詰卓佐枝（昭34）
監査 説田 好伸（昭37）
廣田 隆之（昭57）

令和元年度より会計の計算方法を変更しました。

個人情報の取り扱いについて

中央区立久松小学校校友会

当会は個人情報の利用に関し、以下に掲げる事項を遵守します。

①個人情報の保護に関する法律に基づき、会員の個人情報等を以下の目的にのみ使用します。

校友会名簿管理・校友会だより送付・校友会運営・クラス会準備に必要な連絡。

②会員の公表されていない情報を、適切な運営の確保やその他必要と認められる目的以外に使用しません。

令和元年度基金寄付者ご芳名録

2019（令和元）年7月1日～2020（令和2）年6月30日（順不同 敬称略）

(昭和31年)		(昭和8年)	
谷口 全男	1,000	西 芳子 (吉村)	1,000
上田 秀子 (小竹)	5,000	(昭和11年)	
北村 忠司	2,000	寺島 智以 (関口)	9,000
稲崎 祥二	5,000	(昭和13年)	
田島 正雄	2,000	坂 園子 (畑)	1,000
小島 照子 (渡辺)	4,000	(昭和14年)	
山越 安代 (岩田)	2,000	太田 善朗	2,000
山越 安代 (岩田)	2,000	歌代 三郎	1,000
本田 貫一	2,000	奥田 英雄	2,000
村上 洋	3,000	中島 富美子	1,000
鈴木 茂男	2,000	(昭和17年)	
野島 喜一郎	1,000	(故) 那須 備述	5,000
(昭和32年)		(昭和18年)	
関野 昭幸	2,000	秋庭 信夫	1,000
郷 金二郎	5,000	(昭和19年)	
清水 境一	2,000	佐藤 緋佐子	2,000
西明 帝子 (内藤)	2,000	贅田 ひろ子	3,000
小路 明	1,000	(昭和20年)	
(昭和33年)		高橋 喬二郎	2,000
庄司 楨枝	1,000	栗田 満佐子	2,000
平井 善夫	2,000	池本 智美子	5,000
湯浅 晴江	2,000	佐藤 静江 (小島)	1,000
村上 洋子 (伊藤)	5,000	(昭和21年)	
辻 尚平	2,000	山田 良三	1,000
(昭和34年)		小川 晴子	2,000
樋山 憲治	3,000	(昭和23年)	
大久保 久男	1,000	小谷 堅司郎	4,000
尾澤 道夫	1,000	(昭和24年)	
橋詰 卓佐枝	5,000	佐藤 陽子 (末田)	3,000
渡辺 誠	3,000	(昭和25年)	
(昭和35年)		大居 利宏	1,000
高木 為嗣	4,000	増田 則子 (宮内)	1,000
安部田 貞昭	3,000	(昭和26年)	
横島 邦子 (岩田)	2,000	大和田 勝	2,000
吉村 正人	10,000	奈良林 康次	2,000
松川 正明	2,000	木村 三與吉	3,000
立原 正雄	3,000	(昭和27年)	
田邊 明	1,000	牧野 栄二	5,000
寺島 實	3,000	(昭和28年)	
中島 憲一	1,000	菊島 紀美子	2,000
小山 哲司	9,000	菊島 紀美子	1,000
(昭和36年)		佐藤 公一	1,000
東 章二 (樋山)	1,000	杉田 充規	5,000
中島 務	1,000	杉田 充規	5,000
井上 泰子 (吉村)	1,000	天羽 弘子 (館)	1,000
土屋 つや子	2,000	松原 亨	5,000
松木 教子 (田中)	2,000	(昭和29年)	
(昭和37年)		阿部 雅博	2,000
飯島 孝夫	4,000	関 カズ子 (辻口)	5,000
後藤 保 (住谷)	3,000	岩岡 隆	1,000
田中 豊	5,000	大塚 照男	1,000
荒井 豊	1,000	(昭和30年)	
山田 ふじ子 (江口)	1,000	大塚 愼二 (遠藤)	3,000
中谷 久子 (笠井)	3,000	齊藤 和臣	1,000

(昭和51年)		中谷 久子 (笠井)	3,000
赤塚 正昭	1,000	柳田 博光	1,000
鈴木 由美 (鵜澤)	20,000	大塚 富子	2,000
三部 健	10,000	河野 晴行	1,000
(昭和52年)		佐々木 美知子 (飯田)	1,000
岡野 栄一	2,000	関 真弓 (目黒)	2,000
(昭和53年)		吉村 博	2,000
小久保 明美 (鵜澤)	5,000	(昭和38年)	
(昭和54年)		齋藤 三保 (鈴木)	2,000
原 春夫	5,000	上村 修三	3,000
(昭和55年)		(昭和39年)	
米山 直秀	2,000	河西 英子 (西村)	1,000
島田 康裕	5,000	(昭和41年)	
(昭和59年)		竹本 純夫	2,000
中川 康二郎	1,000	中島 睦喜	1,000
神保 貴	5,000	竹村 典子 (池田)	3,000
神保 千佳 (大島)	5,000	村木 徳一	1,000
(昭和61年)		前田 賀子	2,000
鈴木 純平	1,000	前田 賀子	1,000
岩田 享也	5,000	鈴木 良一	2,000
(昭和62年)		遠藤 真喜子 (大山)	1,000
藏田 幸三	1,000	(昭和42年)	
(昭和63年)		石川 直子 (久保)	3,000
曾我 竜也	1,000	藤本 真存	10,000
(平成2年)		(昭和43年)	
下池 望 (中島)	1,000	小川 健二	1,000
(平成11年)		(昭和46年)	
岩崎 理恵	2,000	大野 由貴子 (吉沢)	3,000
(平成19年)		斉藤 道雄	10,000
高橋 彩香 (藏田)	2,000	林 義隆	4,000
(平成27年)		(昭和47年)	
匿名	1,000	山本 真由実	1,000
(平成28年)		美馬 貴志	5,000
伊藤 朔之助	1,000	(昭和48年)	
岩田 彩耶	5,000	矢成 伸子 (川井)	1,000
		伊藤 宏	1,000

ホームページをリニューアルします

ホームページを2021年5月に引越し、リニューアルいたします。

2021年4月まで <https://hisamatsu-koyukai.jimdosite.com>

2021年5月から <https://www.hisamatsu-es-koyukai.com>

ホームページでは、校友会に関する情報を発信していきます。

また、校友会総会に関する情報、校友会だよりのオンラインでの配布を計画しています。さらに、皆様方からの住所変更、校友会だより配送停止、校友会だより配送再開などのメッセージもお受けするようにしていきます。

校友会ホームページへは右のQRコードをご使用ください。



校友会ホームページ

令和元年度150周年基金寄付者ご芳名録

2019（令和元）年7月1日～2020（令和2）年6月30日（順不同 敬称略）

(昭和35年)		(昭和13年)	
高木 為嗣	5,000	坂 園子 (畑)	1,000
榎島 邦子 (岩田)	2,000	(昭和14年)	
松川 正明	2,000	太田 善朗	2,000
田邊 明	1,000	歌代 三郎	1,000
寺島 實	1,000	中島 富美子	1,000
中島 憲一	1,000	(昭和16年)	
(昭和36年)		松本 喜久弘	5,000
東 章二 (樋山)	1,000	(昭和19年)	
中島 務	1,000	賛田 ひろ子	10,000
井上 泰子 (吉村)	1,000	(昭和20年)	
土屋 つや子	2,000	池本 智美子	3,000
(昭和37年)		佐藤 静江 (小島)	1,000
田中 豊	3,000	(昭和21年)	
山田 ふじ子 (江口)	1,000	小川 晴子	2,000
柳田 博光	1,000	(昭和25年)	
大塚 富子	2,000	大居 利宏	1,000
河野 晴行	1,000	増田 則子 (宮内)	1,000
中谷 久子 (笠井)	6,000	(昭和26年)	
佐々木 美知子 (飯田)	1,000	田上 幸子 (浜田)	3,000
関 眞弓 (目黒)	2,000	匿名	2,000
吉村 博	2,000	(昭和28年)	
(昭和38年)		佐藤 公一	3,000
齋藤 三保 (鈴木)	1,000	菊島 紀美子	1,000
上村 修三	3,000	杉田 充規	5,000
(昭和39年)		天羽 弘子 (館)	2,000
笠井 秀一	3,000	松原 亨	5,000
河西 英子 (西村)	1,000	(昭和29年)	
(昭和41年)		関 カズ子 (辻口)	4,000
竹本 純夫	2,000	岩岡 隆	1,000
中島 睦喜	1,000	(昭和30年)	
竹村 典子 (池田)	2,000	大塚 愼二 (遠藤)	10,000
前田 賀子	3,000	齊藤 和臣	1,000
(昭和42年)		(昭和31年)	
石川 直子 (久保)	3,000	北村 忠司	3,000
藤本 真存	10,000	本田 貫一	2,000
(昭和43年)		山越 安代 (岩田)	2,000
小川 健二	1,000	村上 洋	1,000
(昭和45年)		鈴木 茂男	2,000
大野 俊和	1,000	野島 喜一郎	1,000
中島 昌枝	1,000	(昭和32年)	
(昭和46年)		関野 昭幸	2,000
大野 由貴子 (吉沢)	5,000	清水 境一	2,000
増田 博生	10,000	西明 帝子 (内藤)	2,000
齊藤 道雄	100,000	小路 明	1,000
(昭和47年)		(昭和33年)	
山本 真由実	5,000	庄司 楨枝	1,000
昭和47年卒有志 令和元年8月4日同窓会 出席者44名	69,664	湯浅 晴江	2,000
(昭和48年)		(昭和34年)	
伊藤 宏	1,000	樋山 憲治	3,000
(昭和50年)		大久保 久男	1,000
栗田 和明	1,000	尾澤 道夫	1,000
		橋詰 卓佐枝	5,000
		渡辺 誠	1,000

(平成2年) 下池 望 (中島)	1,000	(昭和51年) 鈴木 由美 (鵜澤)	30,000
(平成7年) 谷 英明	10,000	(昭和53年) 小久保 明美 (鵜澤)	5,000
(平成8年) 岡田 伸之介	4,000	川口 修一郎	5,000
(平成11年) 岩崎 理恵	2,000	(昭和54年) 原 春夫	4,000
(平成20年) 藤澤 大志	4,000	(昭和55年) 米山 直秀	2,000
(平成24年) 増田 聖夕	10,000	島田 康裕	5,000
(平成27年) 匿名	1,000	(昭和59年) 中川 康二郎	1,000
(平成28年) 伊藤 朔之助	1,000	神保 貴	5,000
岩田 彩耶	5,000	神保 千佳 (大島)	5,000
(平成29年) 矢野 碧人	1,000	(昭和61年) 岩田 亨也	5,000
		(昭和62年) 藏田 幸三	1,000
		(昭和63年) 曾我 竜也	11,000

広告募集

あなたのお店や会社の広告を載せてみませんか？

多くの卒業生に読まれている「校友会だより」に、クラス会や同期会、同窓会、野球の勧誘、サークルのお誘いなどを掲載しませんか。広告料は下記の通りです。「校友会だより」の発刊を大きく支えている広告に、ぜひご協力ください。

サイズ	料金	サイズ	料金
1P	120,000	1/2P	60,000
1/4P	30,000	1/8P	10,000
1/16P	5,000		

立石 晴康

(昭和29年卒)

フレンチカフェ
シェ・アンドレ
ドゥ・サクレクール

人形町1-8-5
TEL 03-6228-1053
益川 良雄 (昭和58)

(株)三優小長谷 & 淳工房
絹織物・手描友禅

日本橋箱崎37-4-302
<http://www.obase.co.jp>

令和元年度会費納入者ご芳名録

2019（令和元）年7月1日～2020（令和2）年6月30日（順不同 敬称略）

(昭和48年) 矢成 伸子（川井） (昭和50年) 栗田 和明 (昭和51年) 三部 健 赤塚 正昭 鈴木 由美（鷺澤） (昭和52年) 岡野 栄一 百瀬 京子（山鹿） (昭和53年) 小久保 明美（鷺澤） 林 克洋 川口 修一郎 (昭和54年) 原 春夫 (昭和55年) 米山 直秀 高橋 知江（前） 島田 康裕 (昭和59年) 中川 康二郎 神保 貴 (昭和61年) 鈴木 純平 浦 由紀子（中村） 岩田 享也 (昭和62年) 藏田 幸三 (昭和63年) 曾我 竜也 (平成2年) 下池 望（中島） (平成5年) 林 英之 (平成8年) 岡田 伸之介 (平成11年) 岩崎 理恵 (平成20年) 藤澤 大志 (平成24年) 増田 聖夕 (平成27年) 匿名 (平成28年) 伊藤 朔之助 岩田 彩耶 (平成29年) 矢野 碧人 矢野 碧人 浦辺 隆佑 (平成30年) 本間 公大	石河 秀子（西沢） 東 章二（樋山） 中島 務 山鹿 雅夫 井上 泰子（吉村） 土屋 つや子 松木 教子（田中） (昭和37年) 説田 好伸 飯島 孝夫 田中 豊 荒井 豊 山田 ふじ子（江口） 柳田 博光 中谷 久子（笠井） 大塚 富子 河野 晴行 中谷 久子（笠井） 小倉 裕子 佐々木 美知子（飯田） 関 眞弓（目黒） 吉村 博 (昭和38年) 上村 修三 (昭和39年) 笠井 秀一 笠井 秀一 山崎 行治 (昭和41年) 竹本 純夫 中島 睦喜 渡邊 嘉也 村木 徳一 前田 賀子 前田 賀子 鈴木 良一 遠藤 真喜子（大山） (昭和42年) 石川 直子（久保） 藤本 真存 山崎 心五 (昭和43年) 榊原 京子（滝沢） 小川 健二 小柴 基男 (昭和45年) 大野 俊和 中島 昌枝 (昭和46年) 大野 由貴子（吉沢） 宇田川 有智子（倉田） 松原 淳子（山崎） 増田 博生 齊藤 道雄 林 義隆	阿部 雅博 関 カズ子（辻口） 柴山 淑子（大岡） 岩岡 隆 石川 みさ子 大塚 照男 (昭和30年) 山鹿 輝夫 大塚 愼二（遠藤） 齊藤 和臣 (昭和31年) 谷口 全男 小坂 政子（志村） 上田 秀子（小竹） 北村 忠司 稲崎 祥二 田島 正雄 小島 照子（渡辺） 山越 安代（岩田） 山越 安代（岩田） 本田 貫一 村上 洋 鈴木 茂男 野鳥 喜一郎 (昭和32年) 関野 昭幸 郷 金二郎 清水 境一 西明 帝子（内藤） 小路 明 (昭和33年) 庄司 槇枝 平井 善夫 湯浅 晴江 小田切 勝昭 村上 洋子（伊藤） 辻 尚平 (昭和34年) 樋山 憲治 山崎 文三 大久保 久男 尾澤 道夫 橋詰 阜佐枝 渡辺 誠 (昭和35年) 高木 為嗣 安部田 貞昭 横島 邦子（岩田） 松川 正明 立原 正雄 田邊 明 寺島 實 中島 憲一 小山 哲司 (昭和36年)	(旧職員) 平野 小夜子 (昭和8年) 西 芳子（吉村） (昭和11年) 寺島 智以（関口） (昭和13年) 坂 園子（畑） (昭和14年) 太田 善朗 歌代 三郎 奥田 英雄 中島 富美子 (昭和16年) 松本 喜久弘 (昭和17年) 星 律子（鈴木） (昭和18年) 秋庭 信夫 (昭和19年) 佐藤 緋佐子 賛田 ひろ子 (昭和20年) 高橋 喬二郎 栗田 満佐子 (昭和21年) 山田 良三 徳永 健 小川 晴子 (昭和23年) 小谷 堅司郎 (昭和24年) 佐藤 陽子（末田） 山田 春江（吉田） 寺島 郁雄 (昭和25年) 大居 利宏 増田 則子（宮内） (昭和26年) 大和田 勝 匿名 木村 三與吉 竹内 輝雄 (昭和27年) 渡辺 俊夫 (昭和28年) 菊島 紀美子 菊島 紀美子 佐藤 公一 染谷 政孝 杉田 充規 杉田 充規 天羽 弘子（館） 松原 亨 (昭和29年)
---	--	--	---

令和2年度会費納入者ご芳名録

2020/7/1～2021/3/25の期間に年会費、基金、150年基金を頂戴した方のお名前です。改めて、次号45号で金額とともにご紹介いたします。

150周年基金 寄付者	基金寄付者	年会費納入者	
(昭和19年) 建石 壮一	(昭和17年) 背山 照子 (名和)	安田 俊之	(昭和17年) 背山 照子 (名和)
(昭和20年) (故) 松田 和美 (西田)	(昭和19年) 建石 壮一	黒澤 範子 (岡野)	(昭和19年) 建石 壮一
(昭和21年) 山田 良三	杉山 紀子 (川口)	細尾 浩行	杉山 紀子 (川口)
(昭和24年) 山田 春江 (吉田)	(昭和20年) (故) 松田 和美 (西田)	西岡 壮一	(昭和21年) 山田 良三
(昭和28年) 戸賀 崎 博保	(昭和21年) 山田 良三	浅沼 紀杜	中村 作二
(昭和29年) 矢島 壮太郎	福田 錦二	大塚 ふさ子	福田 錦二
鈴木 貞臣	(昭和23年) 越森 馨子	鈴木 隆之	三井 正昭
(昭和31年) 千原 ゆう子 (加藤)	(昭和24年) 山田 春江 (吉田)	曾根 裕	(昭和23年) 越森 馨子
(昭和51年) (故) 斎藤 元誉	(昭和28年) 戸賀 崎 博保	長澤 裕子 (奥山)	(昭和24年) 山田 春江 (吉田)
三部 健	(昭和29年) 矢島 壮太郎	平尾 文子 (五十嵐)	渡辺 俊夫
(昭和52年) 松田 直美	矢島 壮太郎	谷口 滋子 (小林)	(昭和28年) 戸賀 崎 博保
(昭和53年) 小鹿 篤	鈴木 貞臣	齋藤 淳子 (小長谷)	平田 光子 (坂本)
(昭和56年) 松田 由起子	(昭和31年) 千原 ゆう子 (加藤)	増尾 由里 (石井)	(昭和29年) 矢島 壮太郎
黒澤 範子 (岡野)	矢島 健次	伊藤 薫 (吉川)	鈴木 貞臣
杉山 寿英	(昭和37年) 中谷 久子 (笠井)	石橋 由美 (和久井)	(昭和30年) 山鹿 輝夫
横溝 桃子	(昭和51年) (故) 斎藤 元誉	杉山 寿英	上野 徳男
(昭和59年) 田口 弘明	(昭和52年) 松田 直美	宇多 清二	萩小田 幸子 (五島)
(昭和61年) 新井 絵美子	(昭和56年) 松田 由起子	高野 勇二	(昭和31年) 千原 ゆう子 (加藤)
(昭和62年) 郷坪 育子 (清水)	杉山 寿英	高木 謙次	(昭和36年) 新谷 聖法
(平成14年) 小林 秀太郎	伊藤 薫 (吉川)	高橋 一泰	山鹿 雅夫
(平成27年) 津野 拓海	横溝 桃子	横山 ちさ子 (岡田)	中谷 久子 (笠井)
(令和2年) 山本 紫月	昭和56年卒有志	横溝 桃子	説田 好伸
	(昭和59年) 田口 弘明	柴 友徳	(昭和39年) 笠井 秀一
	(昭和61年) 新井 絵美子	増田 都 (鹿村)	本間 和夫
	郷坪 育子 (清水)	前田 実	(昭和51年) 三部 健
	(昭和62年) 新井 絵美子	関根 弘子	(昭和52年) 松田 直美
	(昭和62年) 郷坪 育子 (清水)	高橋 由布	(昭和53年) 川口 修一郎
	(平成14年) 小林 秀太郎	(昭和59年) 岩本 英和	(昭和56年) 松田 由起子
	(平成19年) 浅見 早智	田口 弘明	飯田 恵美子 (安岡)
	(平成27年) 津野 拓海	(昭和60年) 森川 光代 (上野)	岩本 光弘
	(令和2年) 山本 紫月	(昭和61年) 上野 耕司	川原 摩里
		新井 絵美子	関戸 菜美 (西川)
		(昭和62年) 郷坪 育子 (清水)	濱田 昌美 (上野)
		(平成4年) 鈴木 由美子 (上野)	
		(平成13年) 櫻井 隆介	
		(平成14年) 小林 秀太郎	
		(平成19年) 浅見 早智	
		(平成27年) 津野 拓海	
		(令和2年) 山本 紫月	

ランドセル

——校友会基金にご協力を——

今年もまた別表の通り、多くの方々から、貴重なご芳志をお寄せいただきました。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。金額は一口千円で口数は任意です。

基金、百五十周年行事基金に合計一万円以上のご寄付をいただいた方に、お礼の品（校友会特製ノート）を送らせて頂きます。

【郵便振替】 払込手数料は無料です。
口座名 久松小学校校友会
口座番号東京〇〇一九〇一七一一八九五〇三

尚、払込用紙には卒業年組をお書き下さい。送付封筒のお名前の後に記載があります。

【銀行振込】 振込手数料はご負担ください。

みずほ銀行横山町支店 普通1482776
口座名 久松小学校校友会

銀行振り込みの場合、送付封筒に記載してある卒業年度をお名前の前にご記入ください。卒業年不明の場合は、生年月日をご記入ください。

【手渡し】 手渡しでも受け付けます。お近くの校友会運営委員にお渡しください。

ホームカミングデーのお知らせ

●ご卒業後五十年目の皆さんへ

昭和六十二年から「ホームカミングデー」の制度を設けました。いくつになっても母校は良いもの。まして懐かしい恩師・旧友に再会できるならなおさらです。

ご卒業後五十年たった方々を総会にお招きし、こころゆくまでご歓談ください。

今年成人式を迎えられた方へ

●お知らせ

平成十年より、二十歳になられた年度の卒業生を、総会へお招きすることにいたしました。お友達同士声を掛け合いご出席下さい。若くフレッシュな活力で、総会を盛り上げて下さい。

◎オンライン校友会及び総会のお知らせ

開催日時…二〇二一年五月二十三日（日）

12時～13時

二〇二一年（令和三年）校友会及び総会は新型コロナウイルスの影響を鑑み、運営委員と年度幹事の協議の上、オンラインでの開催とすることに決定いたしました。今年こそはと来場を楽しみにされていた皆様には誠に申

し訳ございません。

オンラインでの参加をお待ちしております。

詳細は、裏表紙をご覧ください。



◎令和四年校友会のお知らせ

令和四年の校友会は五月二十二日の予定です。年度幹事は昭和五十七年、平成四年、平成十四年、平成二十四年卒の方々です。

皆様にお会いできることを楽しみにしております。

ホームカミングは昭和四十五年卒、昭和四十六年卒、昭和四十七年卒の皆様です。また二十歳の校友は、平成二十四年卒、平成二十五年卒、平成二十六年卒の皆様です。ホームカミングおよび二十歳の校友の皆様方は二〇二二年（令和四年）の校友会にご招待申し上げます。

なお、コロナ禍により校友会でお会いできなかった令和二年卒、令和三年卒の皆さん、ふるってご参加ください。

◎ 広告募集

来年四月発行の本誌第四十五号に、広告掲載をご希望の方は、校友会メールアドレスまでご連絡下さい。

Email: hisamatsu.es.koyukai@gmail.com

校友会ホームページ:

<https://www.hisamatsu-es-koyukai.com>

◎ 原稿募集

クラス会や同期会の原稿を募集します。次号第四十五号の締切は二〇二二年一月末日です。

一、文字原稿のみの場合は、本文が一〇〇字以内で、写真を一枚併載する場合は、八〇〇字以内でお願いします。

二、原稿冒頭に会の名称、卒業年、組、執筆者名を明記願います。

三、パソコンで作成された原稿の場合は、CD等の添付をお願いします。メールでのデータ添付も可能です。詳しくは左記の連絡先までお問い合わせ下さい。

◎ お問い合わせ先

校友会本部は、母校内に設けられておりますが、役員は常駐しておりません。

中央区立久松小学校内 校友会事務局

〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町七一二

TEL 03-36661-6016 (代)

FAX 03-36668-2365

Email: hisamatsu.es.koyukai@gmail.com

校友会ホームページ:

<https://www.hisamatsu-es-koyukai.com>

◎ 文書は従来通り学校宛に郵送いただいで結構ですが、現金書留はお受けできません。

◎ 毎年総会には、校長、副校長、PTA運営委員、近隣町内会、久松こども応援会(パパ会)、青少年対策地区委員会の皆様からご後援をいただいております。

◎ 経費削減のため同一住所には一冊のみ発送させていただきます。従来通り複数冊の送付をご希望の場合は、校友会までご連絡ください。

年会費のお願い

校友会継続の為、校友の皆様には、平成十八年より、年会費千円をお支払いいただいております。「配慮の程、よろしくお願ひ申し上げます。郵便振替、銀行振込、手渡しにて受けつけております。

〈表紙題字〉 故 大石隆子先生

〈表紙写真〉 校友会寄贈 梅の木

校友会日より第四十四号

定価五百円(送料込)

二〇二一(令和三)年

四月一日発行

編集・発行 中央区立久松小学校校友会

〒103-0005 中央区日本橋久松町七一二



事務用品・OA用品・印刷

株式会社 **かめや**

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-23-7
TEL 03-3666-5221 FAX 03-3667-3140

E-mail info@kameya-st.co.jp
URL <http://www.kameya-st.co.jp>

代表取締役 **渡辺 政博** (昭和51卒)

 株式会社 **久松商事**

外川 隆康
外川 光久

〒103-0005
東京都中央区日本橋久松町10番10号
(久松ビル)

TEL (03) 3661-3211(代)
<http://www.hisamatsu.co.jp>

(有) **高虎商店**

祭礼及び店用等半纏、てぬぐい、
のれん、袋物の製作販売

中央区日本橋浜町 2-45-6

高橋 堅 (昭54)
高橋 由布 (昭56)
高橋 巧 (昭58)



日本橋の紙鍋
「紙やきホルモサ」
本町1-10-2 江戸橋北
平成4年卒 **坂田誠一郎**

タオル・手拭い各種名入れ

有限会社 **平松**

東日本橋 1-3-6 TEL 03-3851-5091
矢川 春文 (昭54) 美香 (平18)
香織 (平27)

中央区東日本橋 2-10-4

とんかつ
生姜焼き
ラーメン

三好弥

電話 03-3866-3448
03-3863-3448



MARCHENART

メルヘンアート 株式会社
www.marchen-art.co.jp

藤澤とみ子 (昭50) 川端 康裕 (昭51)
河合 啓江 (昭54) 川端 昭宣 (昭57)
〒130-0015 東京都墨田区横網 2-10-9
TEL 03-3623-3760 FAX 03-3623-3766



日本橋かわた内科クリニック
内 科・循環器内科・糖尿病内科

日本橋富沢町 10-18 ☎ 03-3669-2626

川俣 博文

組むめで開てる、マウススクール (学園発祥)



東京都中央区東日本橋2-6-7



公式 LINE はコチラ

人形町 めん処

依々舟

人形町2-22-6
☎ 03-3664-1117

青野 京子 (柴山) (昭和45年卒)
竜也 (平成6年卒)
敏之 (平成8年卒)

(有) **福雅**

横山町 4-5

TEL 03-3663-7211

代表取締役 **福田 喜一** (昭44)

職場のユニホーム製造卸

株式会社 **原利商店**

横山町5-8 奉仕会館2F ☎ 3661-6711

原 由美子 (昭30)
千依子 (昭58)
有加子 (昭63)

正田パッケージ株式会社

〒103-0007 中央区日本橋浜町 2-25-4

朱乃 (平22)
雄太郎 (平25)
和花子 (平27)

<p>洋装雑貨卸 (株)細谷商店 横山町8-7 細谷 昌宏(昭36)</p>	<p>竹内 輝雄(昭26) 喜美子(昭30) 素子(昭43) 日本橋大伝馬町12-8 TEL(3661)2380</p>
<p>コンピュータから事務用品まで 株式会社 リーチ 横山町10-5 TEL 3664-5351 中村 雅昭(昭36) 中村 祐司(昭40) 中村(宮田) 順子(昭43)</p>	<p>(有)川名薬局 東日本橋3-7-3 ☎3661-9146 川名 信一(昭27) あかり(平27) 純一(昭58) 海 喜(平30) 佐智子(昭61)</p>
<p> FUKUMOTO 株式会社 フクモト TOKYO 本社 〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町2-1-4 TEL 03-3663-8541(代) FAX 03-3661-0360 福本 義朗(S37)</p>	<p>タオル・フロシキ・手拭他卸 (株)戸田商店 東日本橋3-8-5 ☎3661-9111 代表取締役 戸田 昌男(昭28)</p>
<p>centean 株式会社センチアン 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-15 ウノサワ東急ビル6F http://centean.co.jp 代表取締役社長 浅沼 紀社 (昭56年卒)</p>	<p>カ×ラ堂 東日本橋2-16-9 ☎3861-2566(代) 後藤 公夫(昭29)</p>
<p>本場大島紬・結城紬・高級呉服卸 株式会社丸大商店 太田 雅久(昭37卒) 〒103-0004 東京都中央区東日本橋1丁目3番13号 電話：03-3851-6384 FAX：03-3851-6385</p>	<p>焼鳥 よし田 吉田 実(昭31) 雄一(昭60) 豊(昭62)</p>
<p>創業明治17年 酒類卸・酒販店・カクウチ 株式会社岡永  日本名門酒会 / 岡本屋永吉商店 〒103-8380 東京都中央区日本橋馬喰町1-7-3 https://www.meimonshu.jp/</p>	<p>酒類販売 (株)勢州屋本店 富沢町10-15 03-3662-3721 岡田 玲子(昭32) 岡田 舞佳(平22) 横山ちさ子(昭56) 悠佳(平24) 岡田 昇也(昭58) 横山 里佳(平23) 梨乃(平23)</p>
<p> 中央区日本橋馬喰町1-4-11 有限会社古今 Tel 5642-7575 近藤栄美子(松島)(昭40卒) 江川安喜子(松島)(昭45卒) 江川 史朗 (平14卒) 江川 輝 (平17卒)</p>	<p>花楨生花店 東日本橋2-3-2 TEL 3851-8761 植野 光弘(昭34) 中原 恵未(平4) 植野 良一(平6)</p>
<p>小沢株式会社 東日本橋3-4-7 3662-0475 上野 一美(昭41) 小澤 正彦(昭43) 吉田 文恵(昭46)</p>	<p>会計・コンサルティング エイビック・コーポレーション 山鹿雅夫(昭36卒) ラッフルズ シティ 1517 シンガポール 911751 電話 65 90278300 Email: abasapac@AOL.com</p>

<p>井上電気商会合同会社 日本橋浜町2-22-5 ヴィラハイッツ浜町101号 ☎ 3661-1627(代) FAX 3661-1673 井上 頼延(昭45) 長田(井上)慧美(平14) 井上 光智(平15) 井上 優(平18)</p>	<p> 久松小学校 校旗作成の実績  株式会社 三上旗店 三上 明夫(昭和43年卒) TEL:03-3663-8841 http://www.mikami-flag.co.jp</p>
<p>e-検査ナビ[®] 株式会社アイエスゲート TEL 03-5879-4527 https://www.isgate.co.jp/ 小林 俊哉(昭和46卒)</p>	<p>(有) 三栄電機 馬喰町1-5-16 ☎3661-1671 山本 功(S43) 井上 京子(S51) 幸夫(S53)</p>
<p>(株) 三協堂 〒103-0007 日本橋浜町1-6-1 TEL 3866-1554(代表) FAX 3861-5726</p>	<p>EST. 1930 小宮商店 KOMIYA SHOTEN 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-9-7 TEL 03-3661-9064 小宮 武 小宮 隆明</p>
<p>初音森神社 東日本橋2-27-9 TEL 3863-1308 田部 裕子(昭48) 景子(平14)</p>	<p>野球ユニフォーム・Tシャツ・ウインドブレーカー (株)タキ 中央区東日本橋1-1-19-4F TEL 03-3851-7714 代表 瀧 賢治(昭47卒)</p>
<p>ダイヒロバッグ株式会社 横山町3-7 TEL 3664-8901(代) 代表取締役社長 村上 浩一郎</p>	<p>鳥井 龍吾(昭47卒) 大吾(平14卒) 玲美(平17卒) 眞美(平22卒)</p>
<p> (有)大嶋屋本店 取締役社長 村山 均 〒103-0003 中央区日本橋横山町7-18 Tel:03-3663-7031 Fax:03-3663-7030</p>	<p>理・美容 谷口育子の店 中央区福祉サービス券 承ります 東日本橋2-16-4 3851-4520 谷口 育子 瀬戸口 順子(S47) 貴志(H12) 潔(H19) 湧児(H14) 毅(H20)</p>
<p> 株式会社マスター カバン・ビジネスバッグ・スクールバッグ 他 増田 義雄 〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町3-6 TEL 03-3663-4561 FAX 03-3663-4570 URL http://www.master1.co.jp/ e-mail:info@master1.co.jp/</p>	<p>昭和47年卒 有志一同</p>
<p> 株式会社 角石 中央区日本橋横山町 2-1 tel:03-3661-9481 http://www.kakuishi.jp</p>	<p>(株)精華堂あられ総本舗 江東区清澄3-10-5 TEL 03-3641-9288 桑原 万代(昭53年卒) 清水 慶太(昭55年卒) 斉藤 夕子(昭57年卒) 桑原 拓也(平16年卒) 桑原 みらの(平20年卒) http://www.seikadoarare.co.jp</p>

(株) トーヨー
東洋地産(株)

横山町6-13
☎3663-9141~4

西沢 俊司(昭31)
郷 (昭58)

一日も早く皆様と
お会いできますように



中谷 久子 (昭37卒)
笠井 秀一 (昭39卒)

京呉服卸

株式会社 山 富

山鹿 輝夫(昭30)

日本橋堀留町2-8-11

電話 3661-4097

踊・祭衣装

日本の歳時記 製造発売元

株式会社 佐藤 万

佐藤 寛(昭30)

久松町6-5

☎3664-3611

Eメールアドレス satoman@path.ne.jp

ホームページアドレス
<http://www.nihon-no-saijiki.co.jp>

ニット製品卸

(株) 富士商会

横山町4-15
TEL 3663-8391

岩田 博(昭32)

インテリア製品卸

(株) 吉悦商店

TEL 3661-9289

昭29年卒 吉田 和雄

携帯電話関連商品

株式会社 サンゴ

代表取締役 黒澤 関則
陽子

(旧姓 小池 昭34卒)

〒131-0043 東京都墨田区立花1-23-5-202-2
TEL 03-5247-4697

文化を創り、文化を築く。

L!FE

ライフ株式会社

〒121-0836 東京都足立区入谷6-2-6
東京文紙流通センターB棟
TEL: 03-3855-1261 FAX: 03-3857-6304
<http://life-st.jp/>

<p>袋物卸 株式会社 正木屋</p> <p>横山町 7-7 TEL 03-3661-6849</p> <p>説田 好伸(昭和37卒) 荻野(旧姓 説田)葉子(昭和39卒)</p>	<p>心華会 書道・硬筆</p> <p>十思スクエア教室(金曜日) 久松教室(火曜日) 浜町教室(水～火曜日)</p> <p>TEL 03-3910-3040 Email shngkai.syodou@gmail.com</p>
<p>OFFICE NET https://www.hayashiya.com/</p> <p>株式会社 林屋</p> <p>横山町1-4 Tel 03-3661-7402</p> <p>林 慶造(S37) 水野 一恵(S62) 林 千恵(H3) 林 千奈(H30)</p>	<p>バレエ教室 スタジオパートワン</p> <p>学園長 城野満佐子(昭35卒)</p> <p>中央区日本橋大伝馬町17-3 ☎03(3661)0425</p>
<p>呉服卸 (株)飯島商店</p> <p>中央区東日本橋3-9-5 TEL 3661-3610</p> <p>飯島 孝夫(昭37) 飯島 邦雄(昭43)</p>	<p>前商事 株式会社</p> <p>〒103-0002 中央区日本橋馬喰町2-7-11 TEL : 03-3661-9950 http://www.maeshoji.co.jp</p> <p>1980年3月卒業 高橋知江(旧姓 前) 1981年3月卒業 前 惣一郎</p>
<p>(有)大坂屋不動産</p> <p>東日本橋1-2-5 TEL 03-3862-3206</p> <p>吉村 正人(昭35卒) 小泉 知子(昭41卒) (旧姓 吉村)</p>	<p>境界調査測量、建物登記手続 吉村測量登記事務所</p> <p>東日本橋1-2-5 TEL 03-3862-3208</p> <p>土地家屋調査士 吉村 正人(昭35卒)</p>



日本橋中央歯科

Nihonbashi Central Dental Clinic

各種	保険	治療	
一	般	歯	科
小	児	歯	科
矯正	歯	科	

受付はAIロボットが対面非接触で対応します。

〒103-0007

中央区日本橋浜町2-11-2

日本橋中央ビル2F



TEL **03-3664-8556**

物流業

食品・チルド・一般雑貨物流 倉庫業務

八大株式会社

日本橋人形町2-16-7

TEL 03-5534-2711

岩田 享也(昭61卒)

諸鳥鶏卵卸

資)大金鳥店

大橋 純子 (昭54)

鈴木 博子 (昭56)

(旧大橋)

大橋 晴代 (昭58)

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町2-5-6

TEL 03-3667-2441

FAX 03-3667-2400

～幸せの香りにつつまれる洋菓子店～

Maison grâce *Ange* アンジュ

お近くにお越しの際は、ぜひご来店ください。

〒227-0062

横浜市青葉区青葉台2-26-1 スクエアハイツ1-C

TEL 045-988-5527 / FAX 045-988-5528

<http://www.ange-japon.com>

小針 悟・紗季
(昭和56 岩本光弘)

安田不動産

建築に関するコンサルティング

ARK

(有)アークオオツカ

03-3631-3156

大塚 照男 (S29年卒)

大塚 義男 (S27年卒)

大塚 真一郎 (S54年卒)

大塚 ふさ子 (S56年卒)



総合卸

株式会社エトワール海渡

ETOILE

代表取締役社長

早川 謹之助

〒103-8370

東京都中央区日本橋馬喰町1-7-16

電話 03-3661-1111(代)

www.etoile.co.jp



包装資材総合卸

株式会社ニシムラ

西村 吉隆 (昭51)

西村 仁美 (平13)

西村 優実 (平18)

西村 隆介 (平23)

墨田区立川 4-13-10

TEL 03-3635-3161

東京都中央区日本橋久松町 10-8

中華料理 **福**

TEL 03-5651-0866

伊東旅館

ITORYOKAN

人形町 2 - 31 - 3

TEL 03 - 3666 - 6675

杉山 寿英 (昭56年卒)



ファッション専科総合卸
株式会社 宮入

日本橋横山町6-18

TEL03-3663-5211



新川屋
佐々木酒店

甘酒横丁

日本橋人形町2-20-3

TEL:03-3666-7662

FAX:03-3668-2553

www.Sasas.jp

和仁輪仁

代表 川口 修一郎 (昭53)
川口 泰輝 (昭55)
川口 正峰 (昭63)
川口 祐ノ輔 (平19)
川口 祐徳 (平21)
川口 祐紀賀 (平24)

焼鳥

おが和

人形町3-11-2

TEL 3661-8711

岩上 敬一 (昭38年卒)

佳夫 (平6年卒)

平成3年卒有志一同

石田 奈生

稲垣(横田) 泉

井上 正俊

内村 仁美

大山 智乗

岡田 一美

岡本(内田) 涼子

加藤 寛士

栗原(加藤) 三千代

柴田 真

滝沢 則子

田中 信太郎

塚田(河合) 絵理子

寺崎 敦

鳥井 悟

長尾 行浩

中村 涉子

西沢 俊昭

林 千恵

平岡 典晃

廣瀬(出口) 真紀子

樋渡 充範

松崎(小山) 奈帆子

山岸(石郷岡) 恭子



家内安全・商売繁盛・交通安全・厄除他
御祈願随時受付けております。

笠間稻荷神社

中央区日本橋浜町二丁目十一番六
電話 〇三―三六六六―七四九八
FAX 〇三―三六六六―七四三八

江戸三大不動
大本山 川崎大師 東京別院
薬研堀不動院
厄除・商売繁昌・開運

TEL. 03-3866-6220

御府内八十八ヶ所第二十三番札所
関東三十六不動霊場第二十一番札所

シモジマ店舗へ 是非ご来店下さい!

包装用品・学童文具・事務用品を
各種取り揃えております

取扱い品目

包装紙・紙袋・化成品袋・ボックス
ギフトカード・シール・POP用品
店舗ディスプレイ用品・粘着テープ
紐類・文具・事務用品・OA用品他

東京(浅草橋)・名古屋・大阪(心斎橋)他
直営店舗がございます。
詳しくはHPをご参照下さい。

夢を包み、心をつなぐ。



〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-29-8
TEL 03-3864-0061 FAX 03-3865-4470
<http://www.shimajima.co.jp/>

昭和56年卒有志一同

飯田恵美子(安岡)
岩本光弘
宇多清二
大塚ふさ子
齊藤淳子(小長谷)
杉山寿英
関戸菜美(西川)
関根弘子
高木謙次
高野勇二
高橋由布
谷口滋子(小林)
平尾文子(五十嵐)



—日本橋エリアの経営革新をサポート—

株式会社福水戸家

平成3年卒 代表取締役 磯部一郎
連絡先：info@fukumitoya.co.jp

2021年(令和3年)校友会について

2021年(令和3年)校友会及び総会は新型コロナウイルスの影響を鑑み、運営委員と年度幹事の協議の上、オンラインでの開催とすることに決定いたしました。今年こそはと来場を楽しみにされていた皆様には誠に申し訳ございません。

オンラインでの参加をお待ちしております。

開催日時：2021年5月23日(日)
12:00～13:00(11:50開場)

開催会場：オンライン配信
(ZOOMウェビナー)

参加方法：①予め、パソコン、タブレット、スマートフォン等に「ZOOM」アプリ(無料)をダウンロードください。

②当日、右QRコードを読み込むか、アプリを開き、ミーティングID:987 4048 1371
パスコード :377595 を入力ください。



令和3年校友会

問い合わせ先:

Toshihide.sugiyama@icloud.com (校友会実行委員長)

同期会

オンライン開催のため、教室の提供はございません。ご了承ください。

久松小学校150周年行事基金についてのお願い

久松小学校は2023年(令和5年)3月9日に150周年を迎えます。

学校は2022年(令和4年)度に150周年行事を実施いたします。

校友会といたしましては栄えある150周年行事に祝意を表し、記念の品を贈りたいと思っております。つきましては、皆様にご協力をお願いしたく、150周年行事基金を集めることと致しました。

記念の品につきましては、決まり次第お知らせいたします。

また、校友会継続の為に校友会基金・年会費の納付を合わせてお願い申し上げます。

住所を変更された方はお届け下さい。「校友会だより」が配達できません。また本誌がご不要の方もご連絡下さい。いずれもご住所、お名前(旧姓)、ご卒業年又は生年月日、組、卒業時の恩師名をお伝え下さい。

連絡先 〒103-0005 中央区日本橋久松町7-2

久松小学校校友会 校友会事務局

E-mail hisamatsu.es.koyukai@gmail.com

校友会ホームページ

<https://www.hisamatsu-es-koyukai.com>



校友会ホームページ